
第 28 回 犬山シンポジウム

プログラム

『肝炎・肝癌の新しい診断と治療』

日 時: 2010年8月5日(木)13:00 ~ 6日(金)11:30

場 所: 名鉄犬山ホテル 6階 「シャトー」

愛知県犬山市犬山北古券 107-1

TEL:0568-61-2211 FAX:0568-62-5750

会 費: 3,000 円

(2009年8月7日開催の世話人会にて、第28回より会費を頂くことになりました)

共 催: 財団法人ウイルス肝炎研究財団

エーザイ株式会社

< 第 1 日目 8 月 5 日 (木) 13:00~18:00 >

< 時間 >

基調講演 20 分、演題 10 分、質疑 5 分、総合討論 15 分

13:00~13:05

開会の挨拶：岡上 武（犬山シンポジウム代表世話人）

13:05~14:30

セッション 1：B 型肝炎

座 長：清澤 研道（長野赤十字病院）

基調講演 B 型肝炎の新しい治療

演 者：林 紀夫（関西労災病院）

演題 1 HBs 抗原量測定 of 臨床的意義

田中 榮司（信州大学消化器内科）

演題 2 HBe 抗原陽性 B 型慢性肝炎の 1 年後の HBeAg-Ab-セロコンバージョン (SC)

は、HBeAg 量が規定する

八橋 弘（国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター）

演題 3 Precore/HBe 抗原の炎症性サイトカイン産生に及ぼす影響について

横須賀 収（千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科学）

— 総合討論 —

— 休憩（10 分） —

14:40~16:20

セッション 2：C 型肝炎 1

座 長：岡上 武（大阪府済生会吹田病院）

基調講演 C 型肝炎の新しい治療

演 者：熊田 博光（虎の門病院肝臓センター）

演題 1 C 型慢性肝炎の治療の予測因子

茶山 一彰（広島大学大学院分子病態制御内科学）

演題 2 血清 IP-10 値からみた PEG/RBV 併用療法の抗ウイルス効果
豊田 成司 (札幌厚生病院)

演題 3 Genotype 1b 型・高 HCVRNA 量例におけるペグインターフェロン (PEGIFN)
とリバビリン (RBV) 併用治療の再燃関連因子
泉 並木 (武蔵野赤十字病院消化器科)

演題 4 C 型肝炎に対する RBV 併用 IFN 治療
—AFP 値は発癌抑制の surrogate マーカーとなり得るか—
大崎 往夫 (大阪赤十字病院消化器科)

演題 5 Peg-IFN/Ribavirin 非著効 C 型肝炎例に対する再治療について
林 紀夫 (関西労災病院)

—休憩 (10 分) —

16:30~18:00

セッション 3 : C 型肝炎 2

座 長 : 小池 和彦 (東京大学大学院医学系研究科消化器内科学)

演題 1 C 型慢性肝炎治療における IL28B の有用性と今後の課題
溝上 雅史 (国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター)

演題 2 高齢者 C 型肝炎では ALT 低値、血小板高値でも発癌する
熊田 卓 (大垣市民病院消化器科)

演題 3 C 型慢性肝炎患者に対する Peg-IFN- α /RBV 併用療法における抗 IFN- α
中和抗体の臨床的意義
西口 修平 (兵庫医科大学内科学肝胆膵科)

演題 4 糖尿病治療薬と HCV 関連肝細胞癌
佐田 通夫 (久留米大学医学部内科学講座・消化器疾患情報講座)

演題 5 C 型肝炎ウイルス感染が NK 細胞機能に及ぼす影響
佐々木 裕 (熊本大学大学院消化器内科学)

—総合討論—

18:00~18:20 写真撮影

18:20~20:00 情報交換会

＜第2日目 8月6日（金） 9:00～11:30＞

＜時間＞

基調講演 20分、演題 10分、質疑 5分、総合討論 15分

9:00～11:25

セッション4：肝癌

座長：小俣 政男（地方独立行政法人山梨県立病院機構（中央病院））

基調講演 肝癌の新しい治療

演者：沖田 極（下関厚生病院）

演題1 EOB MRIによる早期肝癌診断能の向上

山本 和秀（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科消化器・肝臓内科）

演題2 肝癌におけるトランスフェリンレセプター2（TfR2）のAFP産生への関与

向坂 彰太郎（福岡大学医学部消化器内科）

演題3 C型進行肝細胞癌に対するPEG-IFN α -2b/5FU併用療法の評価

鈴木 一幸（岩手医科大学消化器肝臓内科）

－休憩 15分（10:10～10:25）－

演題4 進行肝癌に対する5-FU動注/IFN治療効果予測因子としての末梢血単核

球（PBMC）IFN receptorの意義－pilot study－

日野 啓輔（川崎医科大学肝胆膵内科学）

演題5 肝癌に対する新規抗癌剤ミリプラチン動注療法の治療効果

池田 健次（虎の門病院肝臓センター）

演題6 進行肝細胞癌に対するSorafenib療法の実態と今後の課題

－神奈川県下多施設共同研究－

田中 克明（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

－総合討論－

11:25～11:30

閉会の挨拶：沖田 極（犬山シンポジウム世話人）